

単元名:ここが悪いのですが																																	
科目名	中国語	作成日	2013年10月25日	作成者	岸 昌代																												
学年/年次	-	クラス人数	-	使用教科書と課	-																												
話題分野	自分と身近な人々 日常生活 からだと健康	言語レベル	2	必要時間数	50分×7回																												
I 単元目標																																	
中国への研修旅行に備え、病気や怪我、具合が悪くなったときに慌てず、最低限の対応ができるように、中国の医療事情を理解し、必要な表現や語彙を身につけるとともに、それらの情報を冊子にまとめて、今後の役に立たせる。																																	
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>言語</th> <th>文化</th> <th>グローバル社会</th> <th>学習者</th> <th>教室外</th> <th>他教科</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>わかる</td> <td>😊</td> <td>😊</td> <td>😊</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>できる</td> <td>😊</td> <td>😊</td> <td>😊</td> <td>😊</td> <td>😊</td> <td>😊</td> </tr> <tr> <td>つながる</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							言語	文化	グローバル社会	学習者	教室外	他教科	わかる	😊	😊	😊				できる	😊	😊	😊	😊	😊	😊	つながる						
	言語	文化	グローバル社会	学習者	教室外	他教科																											
わかる	😊	😊	😊																														
できる	😊	😊	😊	😊	😊	😊																											
つながる																																	
言語領域		文化領域		グローバル社会領域																													
<ul style="list-style-type: none"> ◆自分または友人の病状を正確に伝えることができる。 ◆医療機関の指示を正確に聞き取り、わからないことを質問することができる。 ◆指示された治療方法を理解することができる。 ◆中国語の予診表に記入することができる。 ◆中国の薬のレアリアから効能を読み取ることができる。 ◆「中国で病気や怪我をした時に役立つ本」という小冊子を中国語で作成することができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ◆病院の受診システムの日中の相違を比較することができる。 ◆医者や看護師の対応について観察し、日本での経験と比較することができる。 ◆日中の相違点の背景にある要因を考察することができる。 <p>★学習者のコミュニケーション能力レベルに応じて、日本語の助けを借りて行ってもよい。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ◆中国の医療制度の概略について理解することができる。 ◆インターネットを使って中国の常備薬や民間療法について調査することができる。(情報活用) ◆グループ内外で協力して、情報を収集したり、構成を練ったり、各人の得意なことを生かして、編集ソフトで冊子を作成することができる。(情報活用、協働) <p>★学習者のコミュニケーション能力レベルに応じて、日本語の助けを借りて行ってもよい。</p>																													
コミュニケーション能力指標																																	
<p>【自分と身近な人びと】 1-c.簡単な自己紹介を口頭または書いてすることができる。</p> <p>【日常生活】 1-b.1日の生活について、会話ができる。 2-c.日常生活の様子について、会話できる。 2-d.その日にすることを、箇条書きで記録できる。</p> <p>【からだと健康】 1-b.身長・体重・血液型を、言ったり尋ねたりできる。 1-c.からだの調子について、言ったり尋ねたりできる。 1-d.病院や保健室に行きたいと言ったり、行くことを勧めたりできる。 1-e.身近な薬で必要なものを、言うことができる。 2-d.病状について、口頭で説明したり、尋ねたりできる。 2-e.からだの調子について、書いて伝えることができる。</p> <p>★言語領域の「できる」の目標を設定する際に参照した指標。他の領域の目標設定とも連動している。 数字は【言語レベル-指標表番号】を表示している</p>																																	
II 評価																																	
学習を助けるための評価 (形成的評価)			目標達成度を測る全体的評価 (総括的評価)																														
<ul style="list-style-type: none"> ◆体の部位や怪我や病気に関する語彙の豆テストを行う。(正解率) ◆ジェスチャーゲームやクイズ、伝言ゲームをする。(語彙の理解度、推測力、ストラテジーの使用など) ◆中国語の予診表を読み取る。(中国語の知識、前後文脈の推測、経験の活用など) 			<ul style="list-style-type: none"> ◆シナリオプレイを行う。(場面設定の適切さ、表現の分かりやすさ、発音の正確さ、態度など) ◆日中の医療事情についてレポートを書く。(授業の内容理解、調べ学習の成果、考察など) ◆「中国で病気や怪我をした時に役立つ本」を作る。(グループ内外の協力、構成上の工夫、情報の質と量、中国語の語彙・表現の適切さなど) 																														

Ⅲ 学習活動		
プレコミュニケーション活動 (語彙・表現習得活動)	コミュニケーション活動 (学習シナリオ)	
<p>◆簡単な自己紹介を練習する。【自分と身近な人びと1-c】</p> <p>◆体の基本情報や部位名称、旅先でよくかかる怪我や病気に関する語彙を、カードを使い練習する。【からだと健康1-b,1-c,2-d,2-e】</p> <p>◆病気や怪我の状態を説明する簡単な表現を学習する。【からだと健康2-d】</p> <p>◆中国語の予診表のようなワークシートを読み取り、記入して語彙の練習をする。【日常生活2-d】</p> <p>◆ペアを組んでお互いの体調の悪いところ、怪我をした箇所を伝え、また聞いた内容を、第三者に伝えるワークをする。【日常生活1-b,2-c】【からだと健康2-d】</p> <p>★【 】内は対応するコミュニケーション能力指標</p>	<p><場面状況></p> <p>梅山高校では年度末の3月に中国語を学習している生徒たちが、中国に研修旅行に20日間、行くことになった。生徒たちの心配は20日間という長い期間に体調を崩したり、けがをした場合、医療機関や中国の関係者に自分の状態をどう説明したらいいのかである。そこで生徒たちは、もしそのような状態になった場合のことを考え、また友人の付き添いとして怪我や病気をした友人の代弁をする時に、体調(病気)や、怪我の説明ができるようにしておこうということになった。</p> <p><活動の流れ></p> <p>旅先でかかりやすい怪我や病気や体調不良の状態、医療機関で尋ねられることなど具体的な内容を決め、カード等にまとめる。それを中国語どう表現するかゲームなどを通して学習していく。</p> <p>中国の代表的な薬のレアリアを活用して、よくかかる怪我や病気にどの薬が処方されるかインターネットで調べて発表し合う。</p> <p>クラス内でグループに分かれ、医療機関の人、患者、付き添いになってロールプレイをする。3者以外の者は、3人の会話から、病状、怪我の箇所、対処方法等情報を聞き取り、事前に作成したワークシートに記入する。記入した内容が正しく聞き取れているかお互いに確認して練習をする。</p> <p>中国の医療機関、医療事情の概略について共有した後、日本と中国の医療機関や民間療法の類似点と相違点、その背景にある理由を考えさせ、インターネットで補足情報を調べさせてレポートにまとめ、医療に関する社会的、文化的の違いを理解する。</p> <p>ロールプレイや集めた情報をまとめて、「中国で病気や怪我をした時に役立つ本」という小冊子を作成し今後の中国への研修旅行や修学旅行に役立てる。また、研修旅行後、必要に応じて冊子の内容を改善し、次の研修者にプレゼントする。</p>	
<p><使用教材・教具></p> <p>PC、記録用ワークシート、イラストカード、病院の予診表、税関の健康チェック表、薬などのレアリア</p>		
表現と表現のポイント	語彙	文化・グローバル社会事象と事象のポイント
<p><表現></p> <p>哪儿不舒服? / 怎么了? / 感觉怎么样? / 有点儿牙疼 / 吐得很厉害 / 没劲儿 / 不想吃东西 / 需要几天才能好? / 一点儿也不发烧 / 还是躺下好 / 一天吃几次药? / 请拿点儿药来。 / 请叫医生。 / 请带我到医院去。</p> <p><表現のポイント></p> <p>到～去、有点儿～、一点儿也不～、～得很厉害、还是～好、一天吃～次药</p>	<p>去看病、不要紧、力气、流行性感冒、感冒、咳嗽、发烧、三十八度八、打喷嚏、胃疼、头疼、牙疼、发炎、脸色、恶心、头晕、晕车、发冷、食欲、拉肚子、呕吐、受伤、出血、骨折、烫伤、脱臼、过敏性体质、西医、中医、急性、累、医生、大夫、护士、医院、休息、等、药方、下药、吃药、中药、西药、见效、打针、手术、住院、恢复、生水、全身、胃口、嗓子、肚子、血压、血液、大便、尿、加入旅行保険、診断書</p> <p>体の部位</p>	<p><事象></p> <p>◆中国の家庭の常備薬</p> <p>◆病院の受診システム(診察時間、受付方法、支払いのしくみ)</p> <p>◆医療保険制度</p> <p><事象のポイント></p> <p>◆中医の存在に着目して、伝統文化を大切にしながら西洋医学を取り入れている治療法や、民間療法に、日本との違いや影響を発見する。</p> <p>◆中国の医療保険制度の変遷と現状について理解し、農村医療や介護医療の日中比較をしてみる。</p>
教室外(人・モノ・情報)との連繋	他教科の内容との連繋	
<p>日本の病院に行つて予診票をもらう。</p> <p>中国入国に記入する健康チェック表や外務省や自治体の作成した緊急時の冊子を取り寄せる。</p>	<p>情報科、保健体育科、家庭科、地歴科</p>	

授業	主な学習活動	留意点など
1回目 ブレ活動	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介をする既習表現のワークシートを使って復習する。名前、生年月日、年齢、住所を中国語で言う。 5グループに分かれ、旅行時に発生する病気や怪我について、グループ内でピックアップさせ、必要な情報を確認しあう。(日本語でもよい) 	<ul style="list-style-type: none"> 大事な内容なのでしっかりと、まじめに考えるように注意する。
2回目 ブレ活動	<ul style="list-style-type: none"> 体の部位の単語や必要な病気や怪我(1回めの生徒からピックアップされたもの)について、中国語の単語・表現をカードを使って導入する。 「～が痛い」「～の調子が悪い」「気分が悪い」「病院に行きたい」など、自分の不調を訴える表現を学習する。 中国入国時に記入する健康チェック表を記入させる。(未知の語彙に触れる) 覚えなければならない語彙と表現を各自でまとめさせる。(家庭学習→提出) 	<ul style="list-style-type: none"> 中国入国時の健康チェック表を用意する。
3回目 ブレ活動	<ul style="list-style-type: none"> 原因結果ゲーム 病気や怪我名とその原因となるような行為(生水を飲む、転ぶ、夜更かしする、バスに長時間乗る等)を裏表に絵と中国語で書いたカードを用意する。各グループに同じ病名のカードを用意する。教師は、原因となる行為の絵を書いたカードを見せながら中国語で説明して、各グループに病名を書いたカードを挙げさせる。齟齬があった場合、なぜそう思うかグループの代表に発表させる。 ジェスチャーゲーム 医師と病状を訴える患者となってジェスチャーで表現して、他のグループが何の症状か、質問の後、病名を中国語で答える。(上記のカードを示す。) これは何に効く?ゲーム 中国で有名な家庭常備薬のレアリアを用意して、中国語で症状を各グループの一人に言った後、グループに帰り仲間に伝えて、グループ内の別のの人にその症状を治めるレアリアを持ってこさせる。(グループ対抗) 	<ul style="list-style-type: none"> 時間の許す限り レアリア準備
4回目 ブレ活動	<ul style="list-style-type: none"> 単語の豆テスト・シナリオプレイ ①グループごとに異なる場面の医師との会話を考えさせ、中国語で表現して発表する。 ②各グループの場面を聞き取り、ワークシート(症状、病名・怪我名、体温等)に記入させ発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の作った中国語を点検する。ネイティブチェック ワークシート準備
5回目	<ul style="list-style-type: none"> 元とは異なるグループの者と、3人ずつ新たなグループを作り、医師、患者、付き添いの役割で疑似体験させる。交代でいろいろな場面を経験させる。 医師役、患者役、付き添い役、それぞれ相手に正確に言いたいことが伝達されたか記録する(○×で良い)。 ギャップが生じた場合を発表させ、その原因を皆で考えさせて、誤りやすいところを気づかせる。 	
6回目	<ul style="list-style-type: none"> 意見交換(日本語で)緊急時に自分の病状を、また、付き添いとなった場合、同級生の状態をどこまで中国語で伝えられるか。学習した感想。現在の不安は何か? 話し合った内容を発表するとともに、FLTより中国の医療現場、日本との相違点、中国の民間療法等(中国語で)紹介してもらい、インターネットでも調査してレポートにまとめて提出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ネイティブによる中国の医療現場を紹介してもらおう。 事前にキーワードを板書しておく。
7回目	<ul style="list-style-type: none"> ロールプレイや集めた情報をまとめて冊子を作り、次の研修者にプレゼントする。 	